

La Cumprista

第四十一話 降水確率のお話...

「明日の降水確率は、10パーセントとなっています。」という天気の予報があります。10パーセントの降水確率と80パーセントの降水確率。80パーセントの方が大雨の降るイメージを受けますが、降水確率からは雨の強さは読み取れないので。

降水確率は、1980年から気象庁によって導入され、私たちの生活に定着しました。一方、その内容については気象庁とは違った理解をしている人もいるようです（私もです…）。降水確率とは、予報区内で一定時間内に1ミリ以上の雨（大雨でも小雨でも同じ扱いです）が降る確立とされています。

その確立とは、過去の気象データを基に、現在の予報と似た気象条件のときに雨が降った割合を計算したものです。つまり、似たような気象条件のときが10回あったとします。その内、3回1ミリ以上の雨が降っていたとすれば、30パーセントの降水確率となるのです。



降水確率0パーセントは、全く雨が降らないわけではありません。その理由のひとつに、1ミリ以下の雨は、雨の降る確立に計上されていません。それに降水確率は10パーセント刻みで表されているように、四捨五入されているのです。1パーセントも4パーセントの確立も0パーセントと発表されています。

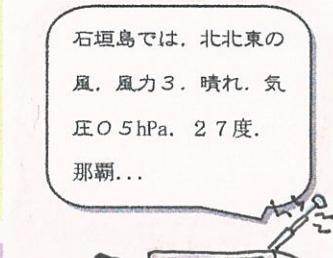
ところで、1ミリの雨とは、どのくらいの量なのでしょうね。日常的な感覚から、路面のアスファルトが濡れて、傘なしではかなり濡れたと感じるくらいとされています。ちなみに、1ミリに満たない雨量では、路面が濡れることがほとんどなく、傘も不要と感じる人が多いとのことです。このため、降水確率予報の対象外となっているそうです。（Y）

第四十二話 引き続き雨のお話...

「くもり一時雨」と「くもりときどき雨」。どちらの予報の方が雨の降る割り合いが多いのでしょうか。国語では、「一時」は、ある限られた長さの時間。その時だけ、その場限りとされています。一方、「ときどき」は、その時その時、たびたびではないが、ある間隔をおいて物事が行われるさまとあります。

気象庁は、「一時」を晴れとか雨、またはくもりといった気象現象が連続して予報期間の1/4(25%)未満続く場合としています。

「ときどき」は、ある気象現象が断続的に起こり、合計が予報期間の1/2(50%)未満になる場合としています。結果的に、「ときどき雨」の方が「一時雨」より多く降る予報となります。



石垣島では、北北東の風、風力3。晴れ。気圧0.5 hPa、27度。那覇...

石垣島では、北北東の風、風力3。晴れ。気圧0.5 hPa、27度。那覇...

風力3は、木の葉や細かい枝がたえず動く。旗がはためく状況。

気象庁の天気予報よりも私の膝（または腰など）の方が天気が分かると言われる方が多くいらっしゃいます。気象の変化で痛みなどの症状が出やすい病気の総称を「気象病」というそうです。気圧や気温の低下が原因のひとつとされています。サポーターなどで、体を冷やさないような工夫で予防できるそうです。かかりつけのお医者さんに相談されてはいかがでしょうか。（Y）

*** 5月の院内研修と委員会は次のとおりです ***

○感染対策委員会13日（月）

○身体拘束廃止委員会16日（木）

○安全対策委員会27日（月）

○褥瘡対策委員会28日（火）

リハビリ室の平行棒で、患者さんと♪ラチャチャチャ～ラ♪と歩く練習をしているときに、他の患者さんが、「それは、クンパルシータですよ」と教えて下さいました。とても博識な方で、いつもいろいろと教えて頂きました。患者さんから教わる気持ちと、その方を忘れないためにこのタイトル名にしました。